

弱者優遇の行く末は

税金の多くが福祉と生活保護などの弱者救済に投じられている。選挙の候補者は弱者優遇を実現しますと訴えて票にしている。いいことである。会社が頑張り、いい政治が行われ国が豊かだからできるのだが、この道をこのまま行けば強い人、有能な人、貢献する人が全くなりなくなってしまう。

人間扱いされなかった無宿人

吉村昭を読みあさっているついでに、その妻津村節子の「海鳴」を読んだ(津村は昭和四十年芥川賞受賞。夫婦の収入は逆転。吉村は「津村節子の夫」と紹介された。「戦艦武蔵」がベストセラーになり、ヒモ生活は三年で終わった。以後年月がたつうちに夫婦は対等の作家になり、現在津村は「吉村昭の妻」と形容されている。本屋の棚に吉村の文庫本はズラリと並んでいるが、津村のは皆無でこの本は古本屋でやっと見つけた)。「海鳴」は佐渡の金山の深い坑の底に溜まる地下水を桶に汲んで地上へ運び上げる。水替人夫の直吉と、金山景気に湧く金山町の歓楽街の女郎はなの悲惨な一生を書いた小説。

小説ではあるが津村は雑誌連載時、毎月のように佐渡を訪れ、現地を見、資料を集め、郷土の歴史研究者や古老の話の聞いた。金山労働者や坑内の描写、またはなが働く町の料理屋の様子は、当時を彷彿とさせる現実味があり、読者を引き込む。貧困の極みにあるばかりか、奴隷ながらに身柄を拘束されてお、年季明けといった未来は全く期待できない。二十歳前後の男と女がその環境から逃げ出すことも

できず、心身ぼろぼろになり、海鳴りのする崖から身を投げて心中する。...

現在の政府が推進している労働時間の短縮や同一労働同一賃金といった「働き方改革」は、こうした弱い立場の労働者の地位と生活を国策によって向上させるのが目的である。

この発想の源は「人間皆平等、一切の差別を許さない、認めない」の民主主義(社会主義に近い)にある。ここから男女雇用機会均等法(昭和五十九年)、男女共同参画社会基本法(平成十一年)が制定され一定の成果をあげた。今度はそれぞれの会社によって異なるそれぞれの労働の時間と仕事の質量、賃金、さらに組織の上下関係の格差まで法の網をかかすて均一化平等化をはかろうとしている。

経営管理講座 344 染谷和巳

貧しい人を救うこともできる。現在の日本は富める国、豊かな国でこれを文字通り行うことができている世界でも稀な国である。

その治安は武力と厳罰主義で人を恐れ従わせて得たものだった。また仕事のない貧しい人を救う思想がなかったしお金もなかった。

今のから百余年前、増え続ける人口(人の口と書くのは言いえて妙である)を食わせるため日本は欧米に追随して植民地を獲得した。中国各地に租界(自治権を持つ居留地)を設け、また満州国を設立し延べ百万人の軍人、民間人を移住させた。

現在の弱者優遇国に至る歴史

衣食住にはお金がいる。お金があれば橋の下で寝て、むしろを着て物乞いするしかない。人のものを盗むしかない。直吉はこうした状況に置かれていた。地方の貧しい農家の次男坊以下はみなこうした状況下であり、実家では食わせてもらえないので職を求めて都市へ出る。職人の技術もないので仕事がない。このような無宿人が町にあふれ、風紀を乱し、治安を乱していた。

国は「住みよい社会」を守るため、直吉のような無宿の若者を集めて佐渡金山へ送った。

生活もできないのに子供を生むのは、灯りといえは月の光くらいの暗い家で夜は寝るしかない。長い夜の眠りにつくまでの時間、夫婦がするのは同じ。避妊にかけるお金はない。それで子供がじゃんじゃんできて、ユニセフがテレビで「餓死寸前のかわいそうな子等に月三千万の寄付をお願いします」のコマーシャルを流す。敗戦後の日本も特に東京などの大都市は食べ物がなく近郊農家を米などを分けてもらって飢えをしのいでいた。夜の電灯はまばらで街は暗く、夜中まで働く人はいたが、今のように夜中まで遊ぶ人はいなかった。

弱者に優しいはいついどだが

労働不足のためベトナムやタイの若者を社員に採用している会社がよく働いて、評判がいい。積極的に建設的で意識が高い。精神も体も強い。約束を守る。誠実である。昔の日本人が備えていた美質を後進諸国の青年が持っている。それに比べ日本人社員は...と社長は言う。

それはそうだが、日本では個人は強くなくても生きていける。福祉国家であり弱者保護大国である。将来は学校も無償化する。国民が働かなくても生きられる国を目指しているようだ。

労働三法により労働組合が結成され、繊維などの大企業の従業員はストライキによって、労働者の権利を手に入れた。それに比べ、労働組合の組合員にもならない日雇いの土方は佐渡金山の水替人夫直吉ほどではないが最下層の弱者だった。

日本の弱者は他国の弱者より格段に恵まれている。低所得者、老人、子供、障害者などを社会的弱者というが、日本はホームレスでも病気になるれば救急車で運ばれ、病院のベッドで死ぬことができる。こんなに弱者にやさしい国は他にない。